2011年9月23日～9月25日

甲武信ヶ岳・金峰山・瑞牆山

M3　田中李樹

【参加メンバー】３名
M3 石出　M1 荒川　C2 田中

【コースタイム】
9月23日　塩山駅 09:05～10:05 西沢渓谷 10:20～西沢山荘 10:40～(徳ちゃん新道)～12:30 分岐点 12:50～(戸渡尾根)～14:30 木賊山～14:50 甲武信小屋 15:15～15:35 甲武信ヶ岳山頂 15:45～16:00 甲武信小屋(泊)
9月24日　甲武信小屋 06:00～06:20 甲武信ヶ岳 06:35～水師 07:10～07:50 富士見 07:55～12:10 国師ヶ岳 12:40～13:20 大弛峠 13:40～14:10 朝日峠～14:40 朝日岳 14:55～15:50 金峰山 16:20～16:45 金峰山小屋(泊)
9月25日　金峰山小屋 05:00～05:20 金峰山 05:50～07:40 大日岩 07:50～08:30 大日小屋～09:00 富士見平小屋 09:25～09:50 天鳥川の渡河点～10:50 瑞牆山 11:20～12:30 天鳥川の渡河点 12:40～13:10 富士見平小屋 13:20～13:50 瑞牆山荘

【本文】
　秋の三連休を利用して2泊の小屋泊まりの山行。当時M1の荒川さんの企画だった。記憶が薄れつつあるが、山行の様子を書いてみる。
　当日朝東京を出発し、登山口を目指した。登山口から徳ちゃん新道はいきなりの急勾配。石出さんを先頭に、疲れないように非常にゆっくりと登った。道中、このゆっくりした登り方を、荒川さんが石出ペースと命名し連呼していた。敬称略なのが少々気になったが、石出ペースで一つの固有名詞なのでおｋらしい。寛容な石出さんは全く気に留める様子もなくニコニコされていた。流石大物である。特に2日目は非常に行程が長かったが、ここで体力を温存できたのは大きかったと思う。
　木賊山からは開けた砂地に出た。奥に美しい円錐形の甲武信ヶ岳山頂が見えていた。小屋に荷物を置いたのは15時頃で、夕食には早いので山頂をピストンしてきた。山頂に着くと山頂の標識のことが話題になった。甲武信というのは、この山頂が山梨県埼玉県長野県の境界にあたることに由来するらしい。山頂に立っていたのは埼玉県の標識で、なぜかその脇に山梨県の標識が横たわっていた。領土を少しでも広げようとする両県の熾烈な争いが見て取れる。また、長野県の標識は見かけなかったが、アルプスを有する日本屈指の山岳地域である長野県の余裕であろうという結論に至った。その後食事は自炊し小屋泊。小屋裏には荒川源流という看板があり、荒川さんが嬉しそうに写真撮影していた。
　翌日、再び甲武信ヶ岳山頂に登り、金峰山を目指す。金峰山山頂の五丈岩はこの日の行程中ほぼずっと望むことができ、それを目標に進んだ。甲武信ヶ岳山頂から国師ヶ岳まではとにかく遠かった。というより、山と高原地図で5時間ちょっとの行程で、比較的早足で歩いているにもかかわらず何故か少しずつ予定のタイムから遅れていき不安だった。山と高原地図のコースタイムは、山域によっても基準の速さにかなりムラがあるので、今考えればなんのことはないのだが、当時はなぜ予定のタイムからずれるのか不思議だった。国師ヶ岳からはいったん大弛峠に下る。ここまでは林道が通っているため、急に登山道が整備され始めた。この日は、理由は忘れてしまったが林道が通行止めになっており、静かな登山道だったものの、普段は車で登ってきた人でにぎわっているのだと思う。その後は順調で金峰山山頂に辿り着いた。遠くから見ると小さな狸のように見えた五丈岩だが、近くでみると本当に巨大で、それも四角い岩が積み重なったような不思議な形をしていた。きっと昔宇宙人が来て積んでいったのだと思う。その晩は山頂から15分ほど下った金峰山小屋に泊まった。小屋ではいろいろな種類の地元の日本酒を売っていて美味しかったので3人で6合飲んだ。3人とも調子が良かったのかさほど酔っ払った記憶はないが、他の宿泊客に日本酒brothersと命名されからかわれた。あまり顔は似ていないと思う。
　翌朝、ご来光を見るため早くに山頂を目指した。ご来光に間に合うかどうかぎりぎりの時間だったため、荒川さんを先頭にものすごい速さで登った。死ぬかと思った。山頂でへばっていると、朝日が顔を出し、富士山や八ヶ岳、アルプスを望む非常に美しい景色だった。努力は実る。そのまま瑞牆山に向かった。いったん富士見平小屋まで下り、そこで要らない荷物をデポ。山頂を目指した。瑞牆山は、途中岩だらけで登り甲斐があったが、行程は短く簡単に山頂に辿り着いた。しかし、ここまでにガスが出始め、残念ながら山頂からの眺望はなかった。山頂は大きな1枚の岩の上という感じで狭かった上に、多くの登山客がいたため、早めにおり始めた。14時前に瑞牆山荘に到着し、3日間の行程を終えた。
　自分はこの時まだ駒場生で、涸沢ヒュッテ以外の小屋に泊まるのは初めてだったと思う。1日の行動時間が長く疲れたが、魅力的な山域で非常に印象深い山行だった。

20○○年○月○日～○月○日